

にしごおり

## 八尾西郡地区のコーポラティブハウス『える』見学会

活動  
報告

疑問もさすが大学の先生グループ中心に活発なやりとりがありました。

## 5世帯・4軒のコーポラティブ

最近の戸建て事情は、都市近郊まで狭小敷地に3階建てという現実。それに比べてコーポラティブ『える』のゆとりある計画が際立ちます。シンボルツリーを中心に2階建て3戸に平屋建てが1戸。5世帯で4軒の構成です。見学コースは2班に分かれて。ぼくたちCMAのメンバーは大学の先生グループと一緒することになりました。

理事長の前原さんの比喻によれば“西郡の銀座通り”に面している『える』。表通りの3軒と、奥に位置する平屋建ての1軒に共通しているのは、どの家にも「ちょこっとコミュニケーション」の縁側が思い思いの趣向で設けられていることです。各住宅の見学では、前原邸のペレットストーブ、南邸の鉄板焼きのある食卓、吉村邸のL形バルコニー。そして住民全員が集まるスペースのある森・松浦邸は、50代の男おひとりさま同志の二世帯住宅。聴覚障害者の松浦さんを森さんがサポートする仕組みを包摂する二人グループホームのような設計プランになっていました。

◎

なんせその時は暑い暑い真っ昼間でしたので、見学ツアーの途中で差し入れてくださった吉村さんの弟さんからの缶ビールは干天に慈雨のごとく染み入りました。ありがとうございました。

※吉村さんの弟さんは、CMA設立総会の折りに来賓としてご出席いただき、「八尾西郡のまちづくり」の活動報告をなさった八尾市会議員の吉村晴之氏その人でした。



CMA会長 森 日出男

8月22日(日)  
多様なグループが参加

近鉄大阪線八尾駅からタクシーで10分。西郡神社の近く、交番と郵便局にはさまれたL形の敷地に4軒の家がいかにも新築という初々しい佇まいで真昼の日差しを浴びていました。

この日、コーポラティブハウス『える』の見学会参加者は、東京・名古屋からいらした大学の先生グループ、大阪谷町の空堀まちづくり研究会グループから2家族（子どもたちも3人参加）、そしてぼくらCMAグループというメンバー構成です。

## まずは『える』竣工までの話を聞く

全員集合となったセンター広場の奥に位置する森・松浦邸は、入ってびっくりの大空間。小学校の教室がすっぽり入る広さなのです。壁面にも桁外れの仕掛けがありました。大量の本が3本のレールに乗っかってスライドする収納力と機能性を兼ね備えた本棚が一方の壁。もう一方の壁は6間以上あろうかという収納壁の扉がすべて板書にもスクリーンにもなるホワイトボード仕様。まさに研究室であり、ワークショップを開くために用意されたスペースでした。

この住人の森さんは教育大学の先生で、実際学生との課外授業に活用されていると聞きました。この日の見学会でも

コーポラティブハウス『える』のスタートから竣工までの紆余曲折を、CASEまちづくり研究所の寺川さんがホワイトボードにパソコンからスライド映写して解説。それをコーポラ住民の目線で理事長の前原さんがおおらかな合いの手をいれるという、いかにも「河内」らしい雰囲気で行われました。

「西郡持ち家GET作戦」  
としての『える』

中高層住宅が多い西郡地域から、若い層が出ていく現状。それに対して、生まれ育った西郡に住み続ける魅力創出を「西郡持ち家GET作戦」とネーミング。戸建てを含む多様な住宅供給の実現に挑戦した2005年当時の日々。敷地候補地の抽出・選定、参加者の募集、候補地の決定、分筆された土地の合筆、土地の持分と建築確認申請のための土地区分との関係確認など、乗り越えるべき課題の数々もたっぴり聞かせていただきました。質

## 箕面市コレクティブタウン北芝の挑戦

8月21日、前回のニュースでお知らせした「北芝夕市」が開催されました。17時ごろから人々が集まりだしたかと思うと、18時のオープニングを待たずに野菜販売や屋台が活気を帯び、夕暮れ時には子どもからお年寄りまで100名を超える人が各々のスタイルで楽しみました。今やこの「市」は、地域住民のみならず、農業を目指す若者の販売機会や様々な思いを持った人々のつながりの場となっています。実はこの時、新たなプロジェクトが企画されていました。そのテーマは、「まちと農村を紡ぐ」です。たまたま、亀岡市にある京都学園大学が里山再生プロジェクトを展開しており、私も非常勤講師であったことから、授業の一環として、大学(研究機関)・能勢(廃材活用土による野菜直売)・大槻並(里山)・北芝(まちの入口)を紡ぐ企画を

授業テーマとしました。

授業では大槻並の民家を借り、北芝のメンバーから「チャレンジ型のまちづくり」の報告を受け、各現場を訪問しました。議論の結果、第一歩として北芝夕市で能勢の野菜を販売からはじまる関係構築と

いう企画が生まれ、今回の実践となりました。これもまた想いつきからスタートしてしまったチャレンジの場…

どうなるか乞うご期待!

CMA副会長 寺川 政司



▲北芝夕市

## トピックス

### 寝屋川御幸西住宅+ CMAの共同企画が、 府福祉部高齢者ケア事業費 助成コンペに当選。

大阪府内の府営住宅及びその周辺地域を対象として、この5月に募集を行った「高齢者等の地域ケア推進事業」において、CMAが企画サポートした寝屋川御幸西住宅(坂本峯子自治会長)の「認知症予防教室」提案活動が22年度の助成対象に決定。

コンセプトは、高齢化する団地既存のサークル活動を楽しみながら、同時に認知症予防を促進するもの。(社)福祉医療テンドア倶楽部の協力のもとで、医師、介護士、管理栄養士等の指導により、身体、神経、食からのケア活動をトータルに行う企画。活動は9月から来年3月におよぼ半年の試験予定。

活動リーダー 若岡 豊二郎

## CMA自転車市民倶楽部コーナー

### 第4回自転車市民塾 「夏休み日之出自転車メンテ教室」を開催

8月28日(土)日之出住宅集会所前広場では、午後5時から子ども祭のため、その前の午後3時から1時間程度を予定していましたが、まつりの準備で自転車教室どころでなくみんなウキウキおわらわ。ただ1台だけタイヤ交換の修理がありました。ただしママチャリなので要領がわからず困っていたところ、鳥取バス輸行に参加の下田さんの息子さんが自転車に詳しく、急遽助っ人で手伝っていただきました。ママチャリ修理は初めての倶楽部メンバーが、下田ジュニアに教えてもらいながら、何とか後輪タイヤの交換ができて大喜び。本日は子供メンテ教室ならぬ、大人の自転車修理教室となりました。



自転車市民倶楽部 小山 勝己

## 会員リレー・メッセージ

### CMA(コマーシャル・アド)ソング 月 月 月

町でいかに住むかだと個人的に考え、CMAとの接点に迫ってみたいものを。

街づくりの一環としてある自転車活動。自転車はCMAのコマーシャル・アド広告塔。

そのアドシーンにはきれいになった町がある。その町でなんとかして(しなくて)生きてこましていくこととして、街づくりの進化・深化へとペダルを踏み込んで、軽くドライブしまひよ。こんな乗り方もありか。……

「おいらはドラマーと、石原裕次郎ばりのチンドン屋になりすまし、ドラムを叩き、ラッパをふくかっこうをして、町区画を、マンションの町並みを練りゆけば、いいCMAのPRに、いいコマーシャル・アド(CMA)になりませ。ワッショイワッショイ、チンドンチンドン」

CMA会員 宮崎 祐次

## 西 淡 路 2 丁 目

箕面北芝地区の芝樂朝市(夕市)に行ってきました。地元産の野菜、果物や生ビール、沖繩そばの屋台と出店も盛り沢山。真夏の涼しい夕暮れに、住民のコミュニティの熱さを感じる楽しい時間を過ごしました。(デビ)



発行 一般社団法人 コミュニティマネジメント協会  
〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路1丁目3-26  
弥生新大阪第一ビル401 CASEまちづくり研究所内  
電話:06-4862-7844 FAX:06-4862-7866  
<http://www.cma-web.net>